

日本研究の現在

- 思想史の立場から -

近年、日本の大学では、「国際日本学」といった看板を掲げる研究/教育組織が増加しており、日本研究は新たな局面を迎えつつあるように感じられます。そこで、今回のワークショップでは、それぞれ「日本学」「国際日本研究」を掲げるコース/講座に所属しておられる気鋭の日本思想史研究者—神戸大学の昆野伸幸さんと東北大学のオリオン・クラウタウさん—をお招きして、お二人の研究成果を共有するとともに、グローバル化時代の日本研究のあり方について意見を交換する機会を設けたいと思います。日本研究に関心をお持ちの方に幅広くご参集いただけましたら幸いです。

第1部 戦時期の言説を読みなおす

報告(1) 「戦時期の国体論を再考する」

昆野伸幸 (神戸大学国際文化研究科日本学コース)

報告(2) 「十五年戦争期における日本仏教論の展開」

オリオン・クラウタウ (東北大学国際文化研究科国際日本研究講座)

第2部 グローバル化時代の日本研究

発題 宇野田尚哉 (大阪大学大学院文学研究科グローバル日本研究クラスター)

ディスカッサント オリオン・クラウタウ 昆野伸幸 ほか

★当日直接会場においでいただいてもかまいませんが、準備の都合のため、なるべく事前に gjsc.osaka@gmail.com までお申し込みください。なお、お問い合わせはグローバル日本研究クラスター・宇野田尚哉 (unoda@let.osaka-u.ac.jp) までお願いいたします。

2016年8月5日(金) 13:30~17:00

大阪大学豊中キャンパス 待兼山会館 会議室

(<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/toyonaka/toyonaka.html> 最寄駅：阪急宝塚線石橋駅または大阪モノレール柴原駅)

